

なのはな

～子ども心と大人心～

NPO法人 なのはな
◇あおぞらキンダーガーデン
◇まほろば
◇わとと・あおぞら
〒420-0961 静岡市葵区北226-1
TEL/FAX 054-246-2213
E-Mail : aozora@shizuoka.tnc.ne.jp
npo-mahoroba@uv.tnc.ne.jp
URL : <http://www4.tokai.or.jp/nanohana/>

☆「ウソ泣き」 永田萌

「ウソ泣きしていたら/きみがトコトコやってきて/「ほくがいるからだいじょうぶ」と言うものだから/かあさん/ウソ泣きが本泣きになっちゃった」

☆「たまごの時代」 永田萌

「おとなになるちょっと前に/おとこの子も/おんなの子も/固いカラのたまごの中に閉じこもる」と始まる、どんな姿で出てくるのやら、周りは気長に待つしほかない。「ここでひとやすみ」の結びが、子育て世代にやさしい。

母のウソ泣きに駆け寄るのも、殻に閉じこもるのも同じ子である。人生の折々に見せる違った顔は、成長のあかしに他ならない。・ ・ 朝日新聞【天声人語】9月20日

これは、9月10日朝日新聞声欄に「児童虐待をなくしたい」のテーマに投書したそらぐみのYくんのママの記事「子どもは、みなママがすき」にその後読者が連動して意見が寄せられ、そんな背景をまとめた形で一面に掲載されていた1部です。

子どもは、大人に愛されている時が一番幸せです。それは、【お母さん】と言う存在が絶対ではなく「継続的・安定的・そして優しく全てを受容できる」という母性的な中味を持った大人の関わりのことであり、人間の土台である基本的信頼感が育ちます。

子どもの願いにこたえる大人心が今、問われています。

Yくんのママの投書をきっかけに「子どもや大人の真の願い」が殺伐とした時代に1輪の花が咲いたように風に乗ってみんなの心が届くといいな一と思っています。(記事を知りたい人は、園にあります) おか

あおぞらの保育8 ～川の保育～

夏を中心にプールとは別に、藁科川で保育をする事が多いです。

川には、水だけでなく石や砂、土、虫、魚、草花・・・とたくさん自然に溢れています。こうした自然の出会いが子どもの心を躍らせ沢山の憧れを育て、あそびを豊かにしていきます。そして、藁科川に住むかわたろうがいつも子ども達のあそびを見守ってくれ、かわたろうの出会いが、あそびを豊かにしてくれています。

川は、危険だからと言って避けるのではなく自然と向かい合い自然から危険を回避する力を育てる事が大事です。子ども達は川をみて「この色は(川が)深い」「この{川の}速さは、入れない」などよくお話をします。命を守る力はこうして子どもは学んでいきます。(おか)

あおぞらだより

～ かかしづくり から ～

たいようぐみ（5歳児）さんが 竹をかつぎ、積み木を運び、のこぎりでキコキコ・・・
そんなようすを『何しているのかな～』とじ～っと見ていたほしぐみ（2歳児）さん。
「かかしをつくってる」「お米を食べられないように」「守ってもらおう」・・・
と、ちょっと恥ずかしそうにでも頼もしい感じで話したいようさんでした。
小さい子は、今、田んぼに立つかかしみたいに 両手を広げて得意そうになって遊ぶ姿もある
くらいです。
きっとたいようぐみさんのそれら全部を、風で、心で、体で、感じているのでしょうね。

きっと覚えてはいないでしょうね。『かたち』にもならず、すぐには答えも出ないこの日常、
当たり前に関わりや出来ごとですが、これこそが人間として生きていくための大切な『ため』なのだ
ろうと改めて思います。

それは、ある長老のお方の雑誌（敬老の日にちなんで）の文章と重なる世界でした。

～日頃の「さわやかな心持ち」が、目の前にあるものを見逃さず、
当たり前が特別な大事なものになるのだろう～

子どもの心に育つ大切な見えないもの・・・と同じですね。

（いなば）

まほろばの部屋から

子どもの発達相談には、なかなか寝付けず、やっと寝たかとホッとしたのに、すぐに起きてしまったり、夜泣きが続いたりするという相談が多く寄せられます。

昼間外あそびをしっかりさせて疲れさせたり、電気を消して家族全員が寝たフリをしたり、なんとかしたいと毎日試行錯誤してみるものの、思うようにならず、まわりの大人がヘトヘトになってしまっていることもよくあります。

子ども自身も、うまく寝ることができなくて、癩癩をおこしたりする場合があります。

食事や睡眠のリズムが安定していて、育てやすい子どももいますが、偏食があったり、少ししか眠らなかつたり、育てにくい子どもの場合には、おかあさんは育児がうまくいかなくて悩んでしまうことが多いようです。

子どもには、それぞれ生まれ持ったタイプや成長のペースがあります。子どもの発達の様子を正しく把握し、どのような子育てが自分の子どもに合っているのかを知り、その子どもに合わせた環境調整を試みましょう。

まほろばでは、子どもへの取りくみだけでなく、保護者のかたの取りくみについても共に考えていきたいと思っています。

(みよこ)

わとと・あおぞら

「やっと、ついたあー！！」

と、まだまだ続く9月の暑さに、わととに着くころには、みんなハアーとクタクタで「すずし！新しいお友達が4組も来てくれました。

3組のママ達は「わととは、子どもと一緒に見ながら遊べていいわよ」と、紹介されたと、訪ねてくそして、もう1組のママは、急に5日前に岐阜から転勤で静岡に来て、まだ静岡のこと1も分らなくて「わととがいいから、いってみたらって教えてくれたんです。こういうところを、教えてもらって」区役所で、わととを紹介してくれたと聞いて、すごい！と、とても嬉しかったです。

来年2月まで県の補助金をいただき「子育て中のお母さんのための無料電話相談」をわととで行ったくさんの電話がかかってくると思いますが、みんな一生懸命です。

悩みを抱えこまず、使えたり、行けたりする場所をたくさん利用して、孤立・孤独化することなく子そして、その1つになれる様「わとと」もめざしたいと改めて思うこの頃です。

せり

友達と見る絵本

11ぴきのねこ だろんこ / 馬場のぼる こぐま社

このお話は、有名な11ぴきのねこシリーズの中の1つのお話です。

11ぴきのねこは、とらねこたいしょうを筆頭に、いつもおもしろおかしいできごとに遭遇するねこたち。

そんな11ぴきのねこたちがえものをとりにでかけると、だろんこまみれになってジャブジャブ遊んでいるきょうりゅうの子どもを見かけます。

次の日、ねこたちがかけ下で困っていたそのきょうりゅうを助けたのをきっかけに、きょうりゅう（ジャブ）はねこたちのもとへあいに来ます。ねこたちを背中に乗せてあそびにでかけると、ジャブはそのままだろんこの中へ。みんなだろんこまみれ。

「うひゃ〜」「しょうがないやつだな〜」というねこたち。子ども達も、この絵本を読んでいるとジャブがだろんこに入るシーンで「ふふ〜」おもしろいといった表情をみせてくれます。

ある日ねこたちの保存食の大量の魚を、りんごとひきかえにジャブがもって行ってしまったのをきっかけに、ねこたちはジャブに仕返しをします。すると、ジャブはみんなの前に姿を見せなくなります。ジャブは一体どうなってしまったのでしょうか・・・。

子どもたちも心配そうな表情・・・。みんなが大好きなこの11ぴきのねこのおはなし。最後まで楽しませてくれて、温かい気持ちになれるお話ですよ。

(あづさ)

育ててよし、ふじのくに民間チャレンジ応援事業

子育て中のお母さんのための
無料電話相談

0800-777-7087

平日9時～14時（祝祭日除く）